

日本国際理解教育学会会報

JAPAN ASSOCIATION FOR INTERNATIONAL EDUCATION NEWSLETTER

Vol. 11 1997年度No.1 1997年8月25日

編集発行：日本国際理解学会事務局

〒150 渋谷区神南1-22-8渋谷東日本ビル8F JFIE日本国際交流振興会内 tel 03-3770-7307 fax03-3496-8875

— 目次 —

- 平成9年度第7回大会開催のご報告
- 理事会報告
- 文部省科学研究費補助金による研究経過報告
- 1997年度 研修会のご案内
- その他のお知らせ

平成9年度第7回大会のご報告

第7回大会実行委員長 中西 晃

第7回大会は6月14日(土)～15日(日)にかけて、東京の目白学園女子短期大学で開催されました。会場校をお引き受けしたものと、当日の天候やどの位の会員が参加していただけるものか、また、大会の内容が果たして会員の皆様にご満足いただけるものか心配いたしました。幸い、天候の方は両日も恵まれ初夏を思わす暑い日々が続きました。また、大会参加者は昨年の帝塚山学院の参加者程ではないにしても、会員、非会員併せて170名程あり成功した部類に入るものと安堵いたしております。特にこの大会では会員や非会員の大学生や大学院生の参加が目立ち22名に達しました。このことから各大学での国際理解教育に関する関心や研究が進展していることが示唆されています。

大会プログラムにもありますように、本大会の特色は例年行っておりますシンポジウムの他に課題別討論会かと思えます。シンポジウムと課題別討論会の企画にあたりましては、13名の会員にお願いして大会準備委員会を組織し、数回の会合を持ちテーマ並びにパネリスト、話題提供者などを決定してきました。これは当面課題となっている問題について、理論と実践の双方からアプローチできればと考えて設定したものです。

両日とも午前中は自由研究発表を4会場に分けて開催し、初日の午後は課題別討論会、総会、懇親会を、二日目の午後は公開シンポジウムを行いました。自由研究発表は36名の会員から29テーマの発表があり、それぞれの発表には多少ばらつきがあったものの20名から50名の参加者がありました。課題別討論会は初めての企画でありましたが、3つのテーマを設定し、司会者の他にディスカッサントをお願いし、話題提供と議論が行われました。どの課題にも30名前後の会員が参加されていましたが、いずれも現在学校及び地域で課題となっている問題を取り上げての討論会でしたので、時間を超過して白熱した討論が行われました。シンポジウムは80名ほどの参加を得て、これまた中教審等で議論されております「総合学習」を取り上げ、小・中・高の実践研究者の報告をもとに展開しました。優れた内容のあるシンポジウムであったと評価されていますが、このまとめは来年度刊行を予定しております紀要第4集に詳細が報告されることになっております。

大会初日に設定しました懇親会には約60名の会員が参加されました。懇親会は情報交換の場でもあり、また、通常はなかなか顔合わせできない会員の親睦の場でもあります。なごやかな雰囲気の中で時間の経過を忘れて冷たいものを交わしながら話し合いが続き、なごり惜しく解散したものでした。

最後に、自由研究発表をしていただいた発表者、さらに課題別討論会及びシンポジウムで話題を提供して下さった皆様、司会者の方々、ディスカッサントの皆様、大会準備委員会の方々に改めて厚く御礼申し上げます。

◆第7回大会プログラム

《第1日目 6月14日(土) 午前の部》

自由研究発表I 司会：荻野治雄(東京家政大学)、柿沼利昭(埼玉大学)

- ①高等学校「国際理解科」の「地域研究」の実践的研究 高橋洋明(目白学園中・高等学校)
- ②ホリスティック教育の理論と方法—中学校社会科「宮沢賢治と井上陽水と子どもたちとのつながり」—
成田喜一郎(東京学芸大学附属大泉中学校)
- ③高等学校における新科目「国際理解」の現状と課題 米田伸次(帝塚山学院大学)
- ④帰国生の学習スタイルを生かした授業への試み—中学校社会科・総合学習での取りくみ—
木村真冬・佐々木善子(お茶の水女子大学附属中学校)

自由研究発表II 司会：多田孝志（目白学園中・高等学校）、宮地敏子（洗足学園短期大学）

- ①異文化理解を支援する情報活用—子どもたちが共に考え、創造し、発信する児童・生徒の育成— 斎藤護（杉並区立八成小学校）
- ②国際理解教育と生き方の教育との関連の検討—「留学生が先生」実施後のアンケート調査を分析して— 三村隆男（埼玉県立蕨高等学校）
- ③人権に対する確かな意識を育てる国際理解教育—多様な価値観の存在に気づき、自分自身を見つめ直す活動を通して— 浅井道広（名古屋市立山田東中学校）
- ④世界に目をひらき、心をひらく子どもの育成 小野江隆（新宿区立戸塚第二小学校）、小室桃子（千代田区立富士見小学校）、山崎俊英（新宿区立戸塚第一小学校）

自由研究発表III 司会：金谷敏郎（園田学園女子大学）、千葉果弘（国際基督教大学）

- ①アジアにおける教育政策の現状と今後への提言 辻井清吾（トリブヴァン大学）
- ②多文化教育への一考察—オーストラリアをテキストにして— 廣内裕子（大阪外国語大学留学生日本語教育センター）
- ③参加から主体的関与へ—96グローバル教育サマーセミナーinカナダからネットワーク形成を 浅川和也（東海学園女子短期大学）、桜井高志（桜井・法貴グローバル教育研究所）

自由研究発表IV 司会：新井郁男（上越教育大学）、岡田真樹子（国際基督教大学高等学校）

- ①私のフィリピンでの日本語指導 山中忠雄（東南アジア文化友好協会）
- ②高等学校国語科における説明的文章教材を用いた実践報告 浅田孝紀（目白学園中・高等学校）
- ③高等学校における多言語教育の可能性—高等専門学校における実践をふまえて— 石田美代子（大阪府立工業高等専門学校）
- ④英語教育の中の国際理解教育—映画Dear Americaをひとつの例として— 寺島隆吉（岐阜大学）、寺島美紀子（朝日大学）

《第1日目 6月14日（土）午後の部》課題別討論会

- 第1課題「地域の特性を踏まえた国際理解教育」 司会：嶺井明子（筑波大学） ディスカッション：宇土泰寛（大田区立蒲田小学校）
話題提供者：①本多成人（市川市立福越小学校）②風巻浩（神奈川県立多摩高等学校）③佐藤恵美子（中国帰国者定着促進センター）
- 第2課題「直接交流による国際理解教育」 司会：清島 眞（異文化教育研究センター） ディスカッション：原裕視（アクセス心理教育研究所）
話題提供者：①木村敏美（太宰府市立太宰府西小学校）②山中啓子・多田孝志（目白学園中・高等学校）③安藤益代（日本国際交流振興会）
- 第3課題「環境に働きかける国際理解教育」 司会：棚橋和正（東京都港区立港陽小学校） ディスカッション：谷川彰英（筑波大学）
話題提供者：①小野江隆（東京都新宿区立戸塚第二小学校）②棚橋乾（東京都多摩市立西永山中学校）③福澤郁文（デザインFF）

《第2日目 6月15日（日）午前の部》

自由研究発表V 司会：天野正治（筑波大学）、土屋正孝（東京都立田無高等学校）

- ①小学校における国際理解教育に関する研究—児童の外国に対する意識の実態を中心に— 田淵仁（奈良教育大学大学院）
- ②日本語教室を起点とした多文化理解プログラム—在日外国人と地域、学校との接点を広げて— 市川博美（信州大学大学院）
- ③多文化共生社会の形成と展開のモデル—新宿の多民族共生の歴史と多面的地域研究から— 川村千鶴子（多文化教育研究会）
- ④歴史教科書の比較分析を通して生徒の歴史認識の深化 町田隆吉・田中暁龍（東京学芸大学附属高等学校大泉校舎）

自由研究発表VI 司会：島久代（千葉大学）、星村平和（帝京大学）

- ①国際理解教育における総合的学習の実践—米を通じた国際理解教育（5年）— 後藤泰博（鳴門教育大学大学院）
- ②宗教的寛容と学校教育に関する研究 金広茂昭（目白学園中・高等学校）
- ③レポート作りを核とした国際理解教育の推進—2つの実践事例を比較して— 西川敏之（山口県下松市立東陽小学校）
- ④日本とオランダの小・中学生の国際意識に関する比較研究—調査結果の各論 グリーク・リークレ（広島大学）

自由研究発表VII 司会：溝上泰（鳴門教育大学）、米田伸次（塚山学院大学）

- ①JETプログラムの現状と展望—国際語としての英語の指導改善と地域の国際交流の推進を果たすJETの役割— 武川正明（北海学園北見大学）
- ②国際教育研究の方法論をめぐる若干の考察 川端末人（神戸大学）
- ③21世紀に求められる市民的資質と教育—国際調査の結果に基づいて— 二宮皓（広島大学）、大津和子（北海道教育大学）

自由研究発表VIII 司会：佐島群巳（日本女子大学）、渡部淳（国際基督教大学高等学校）

- ①文化理解の授業は何を教えるか—日本文化を用いて— 千葉充（東京都立国際高等学校）
- ②国際理解教育における効果的な参加的学習法の形態 高橋輝（文部省）
- ③「国際科コース」の設置構想とその課題 井伊直比呂・治部浩三（大阪教育大学附属高等学校池田校舎）

《第2日目 6月15日（日）午後の部》

公開シンポジウム「国際理解教育の視点から見た総合学習をどう考えたらよいか」 司会：佐藤都衛（東京学芸大学）

パネリスト：高橋豊（川崎市立王禅寺小学校）、青木一（千葉市立横橋中学校）、藤井宏（広島県立安芸府中高等学校）

◆第7回大会に参加して

◇日本国際理解教育学会に参加して

金広茂昭（目白学園高等学校）

国際理解教育に関連して何か発表してはどうか、とのお話があり、今回自由研究発表をさせていただくことになりました。いわゆる高等学校の教員を中心とした研究会には何度か参加していますが、大学の先生を含めたいわゆる「学会」というものは初めてで、最初は参加することをかなりためらいましたが、結局発表することになりました。その理由は、自分は社会教育の立場から宗教の扱いをテーマにしていますが、その研究に、国際理解との関連という新たな視点を加えたいと考えたからです。また、学会の理事のお名前を見ますと、様々な分野でご活躍の先生方がおられ、大会では司会などでも参加されており、非常に興味を持ったことも参加するに至った理由の一つです。発表の方では、質問や批判も頂き、自分の研究の今後について改めて考えることができました。ともすれば現場にこもりがちな私に、いつもと違った空気を吸う機会を頂き、た

いへんありがたく思っている次第です。

◇日本の教育を変える原動力

中山博夫（名古屋市立猪子石小学校）

今回、学会の第7回大会に参加して思うことは、日本国際理解教育学会が、日本の教育を変える原動力になりうるということです。それは、この学会が研究者、学校現場の実践者、生涯学習などの現場の実践者が、相互に歩み寄って研究の深める場となっているからです。私が勤務している名古屋市の場合、さまざまな教育研究会があります。でも、それらは名古屋市の小中学校の教師だけの集まりであったり、高等学校の教師だけの集まりであったりしているのです。小中学校と高等学校の教師の交流もほとんどないし、ましてや、大学の研究者や生涯学習などの現場の実践者と交流する機会は皆無に等しいと言ってよいでしょう。しかし、この学会はちがいます。研究者とさまざまな現場の実践者が、いっしょに実践を指向して研究を進めているのです。理論と実践が噛み合って深まっていくことによってこそ、日本の教育が変わっていくのだと、私は考えています。そして、理論と実践に優劣はないのです。理論は実践をみつめ、真摯な実践から理論が生み出されていくのだと思います。日本の教育を変えていく、この学会にさらに多くの研究者と実践者が集まり、その働きがさらに大きくなっていくことを願ってやみません。

◆総会報告

日時・場所：平成9.6.14. 目白学園女子短期大学

記録：小沢一郎（東京学芸大学附属高等学校）、岡田真樹子（国際基督教大学高等学校）

- 一、開会：中西見総務担当理事より開会が告げられた。
- 一、理事長挨拶・謝辞：天城勲理事長より開会の挨拶が行われ、会場校への謝辞と会員の積極的参加が要請された。
- 一、準備委員長挨拶：中西見大会準備委員長より準備委員会の組織、大会に至るまでの手続き等の説明とともに会員の大会参加へのお礼が述べられた。
- 一、議長団の選出：議長に谷川彰英会員（筑波大学）、宮地敏子会員（洗足学園短期大学）、書記に小沢一郎会員（東京学芸大学附属高等学校）、岡田真樹子会員（国際基督教大学高等学校）が選出された。

<議事>

1. 平成8年度事業報告

中西総務担当理事より、紀要第3号の刊行、研修会の開催、ニューズレター9号、10号の発行、科学研究費による研究の進捗状況、教育スタディツアー、APNIEVE参加、理事会開催回数等の報告があり、承認された。

2. 平成8年度会計決算報告

中西総務担当理事より、決算報告書（別掲）に基づいて決算が報告された。

3. 監査報告

樋口信也監事（帝京大学）より、「会計が適正に処理され健全であるが、年会費未納者が多いことに関しては善処すべきである」旨の報告があった。

*会計報告ならびに監査報告について満場一致で承認された。

4. 平成9年度事業案審議

中西総務担当理事より、今年度の事業計画について次のような提案があった。紀要4号の刊行、研修会の開催、ニューズレター11号、12号の発行、科研による研究の継続、国際会議を開催する発案があること、年度末の役員選挙、教育スタディツアー（タイ国）、名簿刊行予定等。なお、紀要、研修会並びに教育スタディツアーについては柿沼紀要編集委員長、米田研修委員、千葉国際委員長より補足説明があった。

*以上の提案について満場一致で承認された。

5. 平成9年度予算案審議

中西総務担当理事より、9年度予算案（別掲）について説明があり、審議された。

*この予算案について満場一致で承認された。

6. 第8回大会校について

来年度の大会は上越教育大学でお願いすることになり承諾された旨報告があった。次いで第8回大会実行委員長の新井郁男理事より挨拶が行われた。

7. その他：なし

- 一、谷川彰英議長より閉会が告げられた。

平成8年度 日本国際理解教育学会収支決算報告

(平成8年4月1日～平成9年3月31日)

収入総額 ¥5,535,534

支出総額 ¥4,184,059

次年度繰越金 ¥1,351,475

科目	8年度予算額(¥)	決算額(¥)	差額(¥)	備考
I. 収入の部				
入会金	80,000	78,000	-2,000	39人分
年会費	2,345,000	1,985,000	-360,000	96年度332人分+団体2件+他年度会費
助成金	2,000,000	2,000,000	0	公文国際奨学財団より
雑収入	130,000	23,813	-106,187	紀要販売他
繰越金	1,448,721	1,448,721	0	
総計	6,003,721	5,535,534	-468,187	
II. 支出の部				
1. 事業費				
大会運営費	2,500,000	2,454,441	45,559	9年度大会運営費
研修会補助費	500,000	500,000	0	
紀要刊行費	300,000	298,746	1,254	
紀要編集費	1,000,000	1,050,000	-50,000	第2号刊行費
国際交流費	400,000	345,164	54,836	第3号編集費
ニューズレター刊行費	100,000	168,231	-68,231	
会員名簿刊行費	200,000	80,000	120,000	第9、10号発行費
2. 管理費	2,580,000	1,729,618	850,382	名簿追加分の刊行
人件費	700,000	281,309	418,691	アルバイト手当て
事務局運営費	700,000	700,000	0	電話・コピー等を含む
通信費	600,000	356,647	243,353	郵送費
設備・備品費	150,000	23,030	126,970	コーベル5コ+ゴム印
消耗品費	30,000	139,864	-109,864	文具、事務用品
会議費	300,000	0	300,000	会議室借料
旅費交通費	300,000	225,410	74,590	理事会交通費等
役員選挙費	0	0	0	
雑費	100,000	3,358	96,642	振り込み手数料など
3. 予備費	923,721	0	923,721	
総計	6,003,721	4,184,059	1,819,662	

平成9年度 日本国際理解教育学会予算

平成9年6月14日

I. 収入の部

科目	予算額	前年度予算額	増減	備考
入会金	80,000	80,000	0	2000円×40名
年会費	2,500,000	2,345,000	155,000	5000円×500名
助成金	2,000,000	2,000,000	0	公文国際奨学財団より
雑収入	80,000	130,000	△ 50,000	紀要販売(80冊)他
当期収入合計(A)	4,660,000	4,555,000	105,000	
前期繰越収支差額	1,351,475	1,448,721	△ 97,246	
収入合計(B)	6,011,475	6,003,721	7,754	

II. 支出の部

科目	予算額	前年度予算額	増減	備考
1. 事業費				
大会運営費	2,650,000	2,500,000	150,000	10年度大会運営費
研修会補助費	500,000	500,000	0	
紀要刊行費	400,000	300,000	100,000	
紀要編集費	1,000,000	1,000,000	0	第3号刊行費
国際交流費	400,000	400,000	0	4号のための編集費
ニューズレター刊行費	150,000	100,000	50,000	
会員名簿刊行費	200,000	200,000	0	11号、12号発行費
2. 管理費	2,650,000	2,580,000	70,000	10年度予算で刊行
人件費	500,000	700,000	△ 200,000	アルバイト手当て
事務局運営費	700,000	700,000	0	電話・コピー等
通信費	600,000	600,000	0	郵便・郵送料
設備・備品費	200,000	200,000	0	文献保管用戸棚
消耗品費	100,000	150,000	△ 50,000	
会議費	50,000	30,000	20,000	会議室借料
旅費交通費	300,000	300,000	0	理事会交通費
役員選挙費	100,000	100,000	0	
雑費	100,000	100,000	0	
3. 予備費	200,000	923,721	△ 723,721	
当期支出合計(C)	5,500,000	6,003,721	△ 503,721	
前期繰越収支差額(A)-(C)	△ 840,000	△ 1,448,721	△ 608,721	
次年度繰越収支差額(B)-(C)	511,475	0	511,475	

理事会報告

平成9年度第1回理事会

出席者：天城、川端、天野、宇土、柿沼、千葉、永井、中島、中西、星村、米田、渡部、樋口（敬称略）（事務局：安藤）

日時：1997年6月14日（金）午後6時～9時

会場：私学会館5階赤城の間

報告事項

- (1) 第7回大会について
- (2) 紀要第3号の刊行について
- (3) 科学研究費による研究の進捗状況について
- (4) 会費の納入状況について

会費納入状況の報告と同時に①会費納入の督促を再度行うこと、②転勤による宛て先不明を防ぐため、会員になるべく自宅住所を連絡先にするよう呼び掛けること等が提案された。

審議事項

- (1) 平成8年度事業報告
紀要編集・刊行、研修会、ニューズレター刊行、研究委員会活動、スタディツアー、APNIEVB等の活動が報告された。
- (2) 平成8年度決算及び監査報告
樋口監事より、5月28日の会計監査にもとづいて報告がなされた。一般的に学会の会費納入率は7割であるが、当学会は6割となっており、今後、納入率をあげるため、銀行振り込み等の会費納入方法の見直しを検討することが必要であるとのコメントがあった。また、会員によっては経費処理上、年会費支払い時に学会規約が必要になる場合があるので、規約を名簿等に掲載することとする。
- (3) 平成9年度の事業案について
以下の事業が提案され、基本方針等が承認された。
○第8回大会の開催 ○紀要第4号の編集 ○平成9年度研修会
○ニューズレターの発行（年2回） ○スタディツアー ○役員選挙 現行規定により本年度後半に行う。
下記2事業に関しては、実施は来年度になるが今年度から準備等をすすめることが確認された。
○国際会議（1998年の11月頃、アジア・オセアニア地域の国際理解教育の専門家を招いて実施の予定）
○名簿刊行（平成10年2月の郵便番号変更をまって、平成10年度の予算で大会ごろを目処に発行。）
- (4) 平成9年度予算について
配布資料にもとづき、予算が提案され承認された。また以下の点を確認された。
・紀要予算は現行のままにする ・公文国際奨学財団への紀要、会員執筆の文献の寄贈を行う。
- (5) 第8回大会について
来年度の大会開催校は上越教育大学を候補とし、開催校の都合や他学会との開催時期の調整をして時期を決定する。
6月の第二土曜日、日曜日をできたら候補としたい。また、前日には理事会を予定している。
- (6) 紀要第4号の編集について
第7回大会の発表ならびに科学研究費の報告については継続審議。自由投稿の振興について意見が出された。
- (7) 新入会員審査

平成9年度第1回常任理事会

出席者：天城、川端、天野、宇土、柿沼、多田、中西、米田、渡部（敬称略）

日時：1997年7月12日（土）午後2時～5時半

会場：インダストリアルホール 第三会議室

報告事項

- (1) 第7回大会の実施報告

審議事項

- (1) 紀要の第4号の編集について
柿沼紀要編集委員長より応募状況が報告された。第7回シンポジウムのまとめを佐藤理事が執筆し掲載することとなった。また、学会規約を掲載することとなった。
- (2) 9年度の研修会について
研修担当の米田理事より、大阪で11月に実施することが提案された。（次ページの案内をご参照下さい。）

(3) 国際委員会関係について

スタディツアー申し込みが7名であること、国際会議について資金、時期、準備委員会設置などが検討された。

(4) ニュースレター11号の内容について

(5) 役員選挙について

(6) 新入会員審査、連絡先不明会員の取扱について

文部省科学研究費補助金による研究経過報告

研究委員会では、平成7年度より3年継続による基盤研究(A)「国際理解教育の理論的、実践的指針の構築に関する総合的研究」(研究代表中西晃)を行っているが、9年度が最終年度にあたる。このため報告書の作成の作業に取りかかっているが、その概要は次のような構想になっている。なお、この研究成果の報告書は、予算が許せば、完成次第全会員に配布する予定でいる。

(1) ユネスコにおける国際理解教育の概念の変遷(担当:千葉早弘、天野正治、渡部淳)

ユネスコ及び国連における国際理解教育の資料を収集し、その分析を通して国際理解教育の展開の歴史の変遷をみる。

(2) 日本のユネスコ協同学校の歴史と展開(担当:金谷敏郎、嶺井明子、米田伸次)

日本のユネスコ協同学校参画以前のユネスコ運動と参画してからの資料を収集し、分析する。その過程でユネスコ協同学校の歴史と果たした役割を考察する。

(3) 日本における国際理解教育の理論構築(担当:新井郁男、佐藤郡衛)

各大学の研究紀要、図書、雑誌から国際理解教育に関する論文を収集し、データベース化を図る。できれば各文献の要旨をまとめ、国際理解教育の理論の変遷と展望を考察する。

(4) 学校教育における国際理解教育の実践とその成果(担当:中西晃、宇土泰寛、多田孝志)

1980年代頃からの学校の実践研究報告書を分析して、どのように国際理解教育の実践が変化してきているのか、また、現在の特質を考察する。

(5) 国際理解教育に関するキーワード研究(担当:天城勲、川端末人、島久代、新井郁男、佐藤郡衛、多田孝志)

国際理解教育の理論面と実践面の研究推進のためには、作業仮説として文献検索のためのキーワードが必用で、その抽出のための作業を行った。

(6) まとめと課題

以上の研究の成果から日本における国際理解教育の理論構築と実践的展開について総合的にまとめ、今後のこの課題に対する対応を提示する。

1997年度 研修会のご案内

本学会では、下記の要領で研修会を開催する予定です。ぜひ、多くの会員が参加くださいますようご案内申し上げます。

- 1. 日 時 平成9年11月30日(日) 午前10時30分～午後4時30分
- 2. 場 所 大阪中ノ島中央公会堂
- 3. 内 容 ①実践発表(3分科会) 発表者:各分科会 2名予定
②シンポジウム「国際理解教育と生きる力」-実践を通してその育成の可能性をさぐる-
パネリストは現場の教員 4名 予定
- 4. その他 詳細につきましては9月下旬にご案内する予定です。

★実践発表・シンポジウムのパネリストを希望される方は9月15日(月)までに下記へご連絡下さい。

帝塚山学院大学 国際理解研究所 米田伸次 TEL:0723-56-0856 / FAX:0723-56-5628

お知らせ

★公文国際奨学財団から本年度も200万円の研究助成金をいただきました。この助成金は当学会活動において重要な役割を果たしています。心より感謝の意を表します。

★役員選挙のお知らせ

現役員の任期満了にもとづき、今年度後半に役員選挙を実施いたします。平成10年2月半ばごろ会員の皆様に投票用紙を発送し、3月7日を投票締切とし、3月末には結果をご報告する予定です。

★入会・退会等のお知らせ

<新入会員>

97年1月～97年7月の間に35名の方が入会されました。新たに作成した会員名簿追加ページを同封致します。

<会員の移動>

以下の方の住所・所属等が変わりました。

- 孫福弘 : (自 宅) 〒241 横浜市旭区上白根2-13-2 TEL 045-755-3511
佐々信行 : (自 宅) 6613 Beverly Avenue McLean VA22101 USA TEL 703-448-3722
(勤務先) Great Falls Elementary School TEL 703-759-3019 FAX 703-759-9365
E-mail nsassa@pen.k12.va.us
- 廣内裕子 : (自 宅) 〒574 吹田市上山田八番13-719 TEL/FAX 06-876-1772
廣津和生 : (勤務先) 〒800-03 福岡県京都郡苅田町新津1633 西日本工業大学
小林亮 : (自 宅) 〒220 横浜市西区東久保町40-15 TEL 045-242-1459
(勤務先) 〒108 港区三田2-15-45 慶應義塾大学文学部教育学科
TEL 03-3453-4511 (大代表)
- 和田雅史 : (自 宅) 〒156 世田谷区経堂4-2-3 TEL 03-3420-8089
中島健夫 : (自 宅) 〒164 中野区上高田4-23-13 アトラスビル203号 TEL 03-5380-4304
清水公男 : (自 宅) 〒192-03 八王子市別所2-16-1-412 TEL 0426-77-0519
(勤務先) 都立農業高校
- 福田隆真 : (自 宅) 〒753-02 山口市大内御堀777-91 TEL 0839-22-5787
神利子 : (勤務先) 〒038 青森市羽白字富田80-7 青森北高等学校
野口昇 : (勤務先) Jianwaigongyu 5-15-3 Beijing 100600 UNESCO Beijing Office
TEL (86-10)65321725/65322828 FAX (86-10)65324854
- 中村直行 : (自 宅) 〒851-01 長崎市宿町313 A-302 TEL 095-839-2347
(勤務先) 長崎県教育委員会学校教育科 TEL 0958-24-1111
- 柿沼利昭 : (自 宅) E-mail fknkykkk-h6@ar.aix.or.jp
(勤務先) E-mail kakinuma@sacs.sv.saitama-u.ac.jp
- 福澤郁文 : (自 宅) 〒232 横浜市南区南太田2-25-13 TEL 045-715-1800
田淵仁 : (自 宅) 〒431-03 静岡県浜名郡新居町中之郷3640-9 教員住宅南1号
(勤務先) 新居町立新居小学校
- 新田ゆかり : (勤務先) 〒330 大宮市土手町1-140-401 東大成小学校
善財利治 : (勤務先) 〒270-14 印旛郡白井町大山口2-1-1 白井町立大山口中学校 TEL 0474-91-8091
嶺井明子 : (自 宅) 〒133 江戸川区北小岩2-32-10 TEL 03-3671-9804 FAX 03-3658-2446
小室桃子 : (自 宅) 〒115 北区赤羽西1-29-18-703 7°ビル赤羽 TEL 03-3905-5096
加藤康子 : (勤務先) 〒567 大阪府茨木市宿久庄2-19-5 梅花女子大学文学部児童文学科
TEL 0726-43-6221
- 宮原みどり : (自 宅) 〒750 下関市彦島江の浦町4-11-1-202 TEL 0832-68-0921
保立雅紀 : (自 宅) 〒277 柏市豊平町11-33 エスタ豊四季102号 TEL 0471-43-4610
和田俊彦 : (自 宅) 〒591 大阪府堺市向陵中町2-2-27 Mビル405号 TEL 0722-50-4434
久野登久子 : (勤務先) 〒151 渋谷区代々木2-23-1 ニュースイトナ1402 幼少児国際教育交流協会
TEL 03-5350-2075
- 天野正治 : (勤務先) 筑波大学教育学系 TEL/FAX 0298-53-4742
中島章夫 : (勤務先) 〒101 千代田区外神田6-5-4 倍楽ビル6F TEL 03-3837-8831 FAX 03-3837-8838
近藤正隆 : (勤務先) 〒162 新宿区神楽坂6-35-1 教育センタービル (社) 日本青少年育成協会
TEL 03-3269-8411
- 横瀬弘幸 : (勤務先) 筑波女子大学
鶴島久代 : (勤務先) 〒288 銚子市明神町1-1 銚子市立第一中学校 TEL 0479-22-1273
榮健 : (勤務先) 〒106 港区元麻布3-8-15 港区立南山小学校 TEL 03-3408-4532
佐藤善志 : (勤務先) 学習院大学学生部 TEL 03-3986-0221
溝口悦子 : (自 宅) 〒171 豊島区南池袋2-8-1 エバーグリーンソイツ501 TEL/FAX 03-3984-6990
福田英樹 : (自 宅) 〒208 武蔵村山市岸1-30-2 TEL 0425-60-8492
斎藤直子 : (勤務先) 杉並区立中瀬中学校
河合芳宏 : (自 宅) 〒454 名古屋市中区万場5-1513
上斗晶代 : (自 宅) 〒734 広島市南区翠5-6-18-402 TEL 082-255-4398
(勤務先) 広島女子大学国際文化学部
- 佐々木栄子 : (自 宅) 〒381-22 長野市青木島綱島719-1 アップル原田205 TEL/FAX 026-283-0664
北川保 : (自 宅) 〒515 松阪市船江町7-4

なお、会員で住所や所属、電話番号に変更があった方は必ず事務局までご連絡下さい。

<退会者>

以下の方が97年1月～97年7月の間に退会されました。

岩崎袈裟男、鳥谷倫子、市岡邦男、岡野晋一、平田隆太郎、丸山真智子、東郷達男、寺井久元、霜鳥秋則、

恩田久雄、植野美穂、上別府隆男、岡本稔、丹羽宗吉、岡田精助、高倉翔、館比佐男、伊藤久雄、白石裕、樋口和憲、小川輝徳、道廣史行、長谷叡尚、下平喜代子、中野勘也、久保田公夫、老田昭、鈴木洋二、磯崎育男、上田紀行

<所在不明の会員>

以下の方の連絡先が不明です。連絡先がお分かりの方は事務局までご連絡下さい。

中西敏治、中村章、芦沢真吾、山之内敏喜、永堀宏美

★ 寄贈文献・図書

次の通り文献の寄贈がありました。

- 筑波大学教授 天野正治氏より「比較・国際教育 第5号 朴 聖雨教授退官記念特集号」1997年3月
- 帝塚山学院大学国際理解研究所より「国際理解 28号」1997年3月 および「国際理解研究所報 第6号」
- 大阪国際交流センターより「第6回 教員のための国際理解教育入門セミナー 報告書」
- 関西高等学校教諭 曾根喜美男氏より同氏著作「武道教育論 -- いま、教師が問われている」日本出版放送企画
- 東京大学教授 箕浦康子氏より同氏著作「地球市民を育てる教育」岩波書店
- 国際基督強打医学教授 千葉早弘氏より：
同氏および小島文英氏研究報告書「諸外国における高等教育機関の選抜制度」国際基督教大学教育研究所
同氏編著「なぜ識字か 発展途上国の現状」国際基督教大学教育研究所・リテラシー研究会
- 天城勲氏より同氏監訳「学習：秘められた宝 ユネスコ「21世紀教育国際委員会」報告書」ぎょうせい
- 帝京大学教授 樋口信也氏より同氏著作「国際理解教育の課題」教育開発研究所
- 財団法人 日本ユニセフ協会より「国々の前進」
- 東京都立松が谷高等学校 斉藤実氏より同校報告書「国際理解教育 推進校第2年次の報告」平成9年3月
- 異文化間教育学会より「異文化間教育学会調査報告シリーズ No.1 日本語の習得と文化理解」1997年3月
- 帝塚山学院大学教授 米田伸次氏より「人権文化の創造をめざして」全国同和教育研究協議会 および「国際人権ブックレット 人権教育は今、そしてこれから」ヒューライツ大阪
- 世界銀行東京事務所よりビデオ「The World Bank Now -- 貧困への挑戦」

★ (財) 公文国際奨学財団への寄贈文献・図書

当学会宛のほかに、学会の研究活動を支援していただいている同財団への寄贈も受け付けておりますので、できれば文献・資料は各2部（一部は同財団への寄贈）事務局までお送り下さい。

★ 会費納入のお願い

紀要をはじめ当学会の活動費は会員の皆様の会費でまかなわれておりますので、会費未納入の会員の方は会費をお支払ください。会費は年額5000円、入会金は2000円です。

郵便振り込み口座 口座番号：00120-5-601555 名義：日本国際理解教育学会